

令和2年
人口動態統計月報年計（概数）の概況
—島根県編—

目 次

人口動態調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

結果の概要

1 結果の要約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2 出生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（1）出生数・出生率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（2）合計特殊出生率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
3 死亡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（1）死亡数・死亡率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（2）死因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
4 婚姻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
5 離婚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

統計表

第1表 人口動態総覧（実数）の年次推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第2表 人口動態総覧（率）の年次推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第3表 母の年齢（5歳階級）別出生数の年次推移・・・・・・・・・・・・ 19
第4表 性・年齢（5歳階級）別死亡数の年次推移・・・・・・・・・・・・ 20
第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率（人口10万対）・・・・・・ 22

参 考

*算出に用いた人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

島根県健康福祉部健康福祉総務課

T E L 0852-22-6329

F A X 0852-27-6317

人口動態調査の概要

1 調査の目的

我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象及び客体

「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象としているが、本概況では令和2年に日本において発生した日本人の事象を客体とした。

3 調査の期間

令和2年1月1日～令和2年12月31日

4 調査の方法

市区町村長は、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の届書に基づいて人口動態調査票を作成する。

5 報告の系統

市区町村 — 保健所 — 都道府県 — 厚生労働省
└─ 保健所を設置する市 ─┘
・特別区

6 結果の集計

集計は、厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）で行った。

【利用上の注意】

1 印刷公表している人口動態統計の資料は次のとおりである。

<人口動態統計速報>

数 値：調査票を作成した数

集計客体：日本における日本人及び外国人、並びに外国における日本人
(いずれも前年以前発生のもを含む)

公 表：毎月（調査月の約2か月後）

<人口動態統計月報>

数 値：概数

集計客体：日本における日本人（前年以前発生のもを除く）

公 表：毎月（調査月の約5か月後）

毎年（年間合計）（調査年の翌年6月）※本概況

<人口動態統計年報>

数 値：確定数（概数に修正を加えたもの）

集計客体：日本における日本人（日本における外国人、外国における日本人及び前年以前発生のもは別掲）

公 表：毎年（調査年の翌年9月）

2 諸率の算出基礎となる人口について

合計特殊出生率等の諸率の算出の基礎となる人口は、本「概数」においては、総務省統計局の資料に基づき、令和2年10月1日現在の人口を厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計したものである。

3 表章記号の規約

計数のない場合	—
統計項目のあり得ない場合	・
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…
比率が微小（0.05未満）の場合	0.0
減少数（率）の場合	△

なお、掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

4 用語の説明

自 然 増 減：出生数から死亡数を減じたもの

乳 児 死 亡：生後1年未満の死亡

新 生 児 死 亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死 産：妊娠満12週以後の死児の出産

周 産 期 死 亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

合計特殊出生率：その年次の15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

5 この概況で使用した数値は、令和元年以前は確定数である。

6 都道府県別の表章は、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、死産は母の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所による。

1 結果の要約

(1) 出生数は減少

出生数は 4,473 人で、前年の 4,594 人から 121 人減少し、出生率（人口千対）は 6.8 で、前年の 6.9 を下回った（全国第 18 位）。

合計特殊出生率は 1.69 で、前年の 1.68 を上回り、全国第 2 位（昨年 は 3 位）であった。第 1 位は沖縄県（1.86）、第 2 位は島根県（1.69）、第 3 位は宮崎県（1.68）、第 4 位は長崎県（1.64）、第 5 位は鹿児島県（1.63）である。

(2) 死亡数は減少

死亡数は 9,585 人で、前年の 9,710 人から 125 人減少した。死亡率（人口千対）は 14.6 で、前年の 14.6 と同じであった（全国第 2 位）。

死因別にみると、死因順位の第 1 位は悪性新生物、第 2 位は心疾患、第 3 位は老衰となっている。全死亡に占める割合はそれぞれ 25.2%、14.6%、11.7%である。

(3) 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△5,112 人で、前年の△5,116 人から減少数が 4 人減少し、自然増減率（人口千対）は△7.8 で、前年の△7.7 より減少率が 0.1 増加した（全国第 42 位）。本県では平成 4 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減が続いている。

(4) 死産数は減少

死産数は 91 胎で前年の 98 胎より 7 胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は 19.9 で、前年の 20.9 を下回った。死産率のうち、自然死産率は 13.1（前年は 11.5）、人工死産率は 6.8（前年は 9.4）となっている。

(5) 婚姻件数は減少

婚姻件数は、2,398 組で、前年の 2,625 組から 227 組減少し、婚姻率（人口千対）は 3.6 で、前年の 3.9 を下回った（全国第 37 位）。

平均初婚年齢は夫 30.3 歳、妻 28.9 歳で、夫は前年と同じ、妻は前年より 0.1 歳低下した（全国平均は夫 31.0 歳、妻 29.4 歳で、夫は前年よ

り 0.2 歳低下、妻は前年より 0.2 歳低下した)。

(6) 離婚件数は減少

離婚件数は 877 組で、前年の 945 組から 68 組減少し、離婚率（人口千対）は 1.33 で前年の 1.42 を下回った（全国第 42 位）。

表 1 人口動態総覧

	実数			率		平均発生間隔	
	令和2年	令和元年	対前年増減	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年
出生	4,473	4,594	△ 121	6.8	6.9	1時間 57分 30秒	1時間 54分 24秒
死亡	9,585	9,710	△ 125	14.6	14.6	54分 50秒	54分 7秒
乳児死亡	12	10	2	2.7	2.2	30日 10時間	36日 12時間
新生児死亡	8	4	4	1.8	0.9	45日 15時間	91日 6時間
自然増減	△5,112	△5,116	4	△ 7.8	△ 7.7
死産	91	98	△ 7	19.9	20.9	4日 15分 49秒	3日 17時間 23分 15秒
自然死産	60	54	6	13.1	11.5	6日 2時間	6日 18時間 13分 20秒
人工死産	31	44	△ 13	6.8	9.4	11日 18時間 34分 50秒	8日 7時間 5分 27秒
周産期死亡	24	17	7	5.3	3.7	15日 5時間	21日 11時間 17分 38秒
妊娠 22 週以後の死産	18	14	4	4.0	3.0	20日 6時間 40分	26日 1時間 42分 51秒
早期新生児死亡	6	3	3	1.3	0.7	60日 20時間	121日 16時間
婚姻	2,398	2,625	△ 227	3.6	3.9	3時間 39分 10秒	3時間 20分 13秒
離婚	877	945	△ 68	1.33	1.42	9時間 59分 18秒	9時間 16分 11秒

	令和 2 年	令和元年
合計特殊出生率*	1.69	1.68

*分母に用いた人口

令和 2 年の分母に用いた人口は、総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計した令和 2 年 10 月 1 日現在の 5 歳階級別日本人女性人口。

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満 22 週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対である。

2 出生

(1) 出生数・出生率

令和2年の出生数は4,473人で、前年の4,594人から121人減少し、出生率（人口千対）は6.8（全国第18位）で、前年の6.9を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

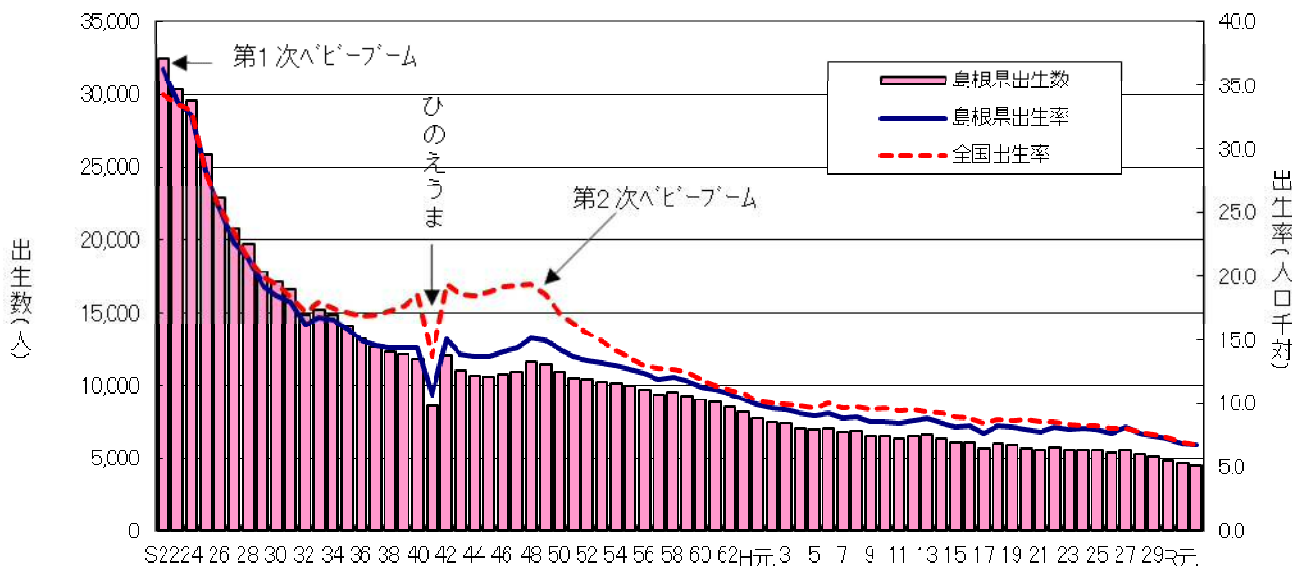


図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15歳～19歳、40歳～44歳、45歳～49歳の各階級が前年より増加し、その他の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	30年-29年	元年-30年	2年-元年
総数	5,109	4,887	4,594	4,473	△ 222	△ 293	△ 121
～14歳	-	-	-	-	-	-	-
15～19	38	32	33	37	△ 6	1	4
20～24	459	455	417	393	△ 4	△ 38	△ 24
25～29	1,361	1,399	1,308	1,304	38	△ 91	△ 4
30～34	1,864	1,739	1,593	1,508	△ 125	△ 146	△ 85
35～39	1,136	982	1,015	976	△ 154	33	△ 39
40～44	247	270	225	245	23	△ 45	20
45～49	4	10	3	10	6	△ 7	7
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、令和2年は第1子が前年より増加し、第2子以上で減少した（表3）。

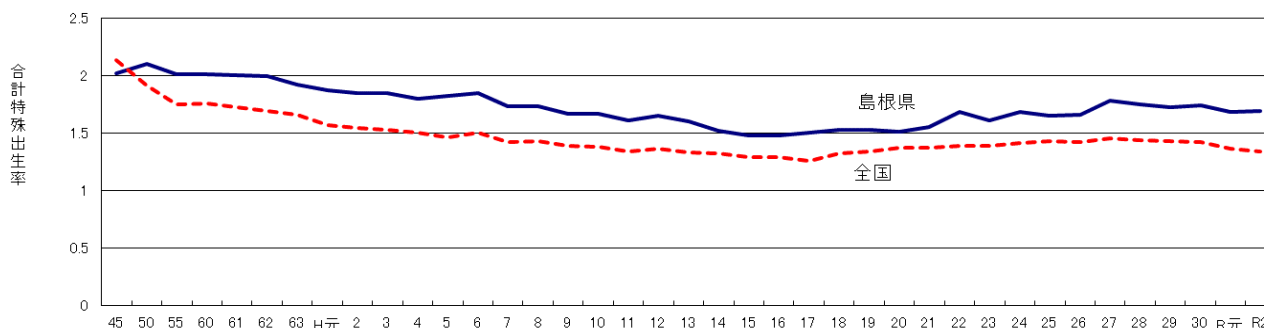
表3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	30年-29年	元年-30年	2年-元年
総数	5,109	4,887	4,594	4,473	△ 222	△ 293	△ 121
第1子	2,025	2,021	1,827	1,888	△ 4	△ 194	61
第2子	1,914	1,760	1,679	1,563	△ 154	△ 81	△ 116
第3子以上	1,170	1,106	1,088	1,022	△ 64	△ 18	△ 66

(2) 合計特殊出生率

令和2年の合計特殊出生率は1.69であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、令和2年の順位は全国第2位である（図2）。

図2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
 「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の15歳から49歳までの合計

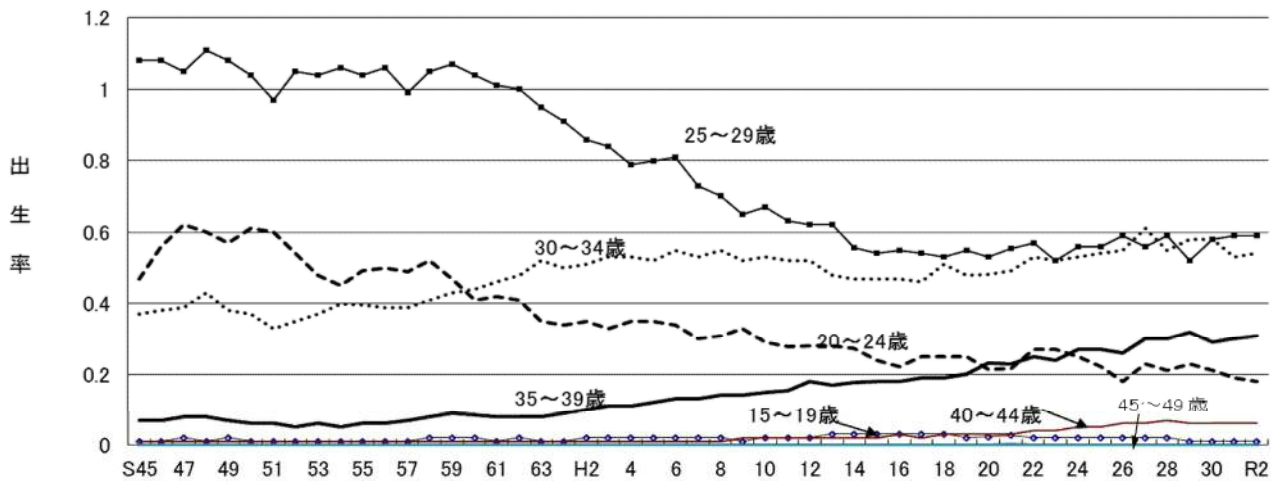
※1 (母の年齢別出生数) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人人口)

令和2年は総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計した10月1日現在の5歳階級別日本人女性人口。

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。令和2年は15～19歳、40～49歳の各階級で上昇し、20～39歳の各階級では下降した(図3)。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移



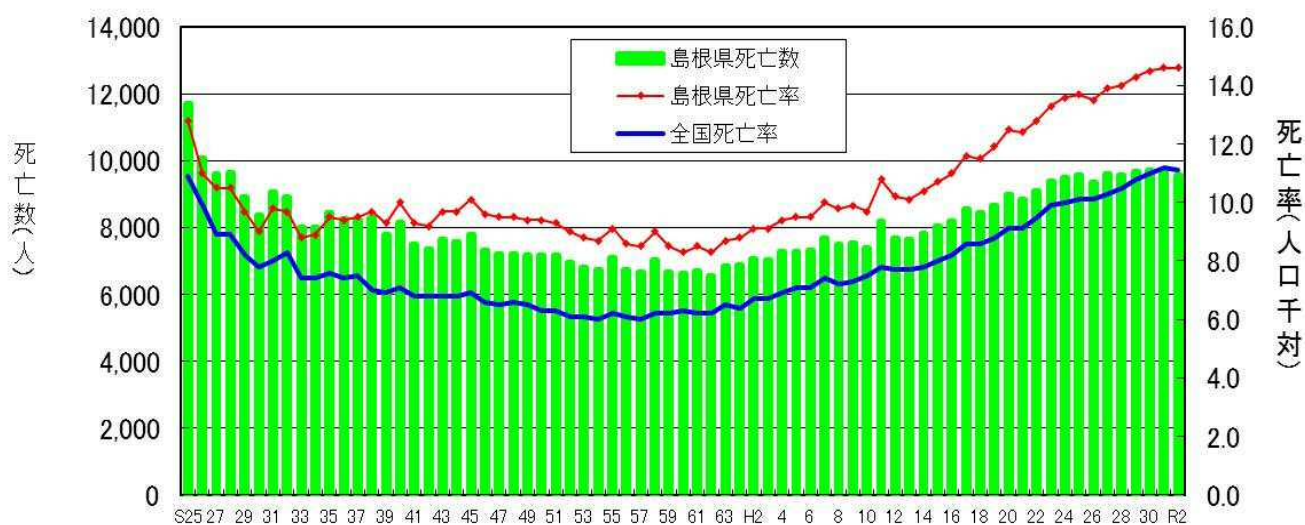
3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

令和2年の死亡数は9,585人で、前年の9,710人より125人減少し、死亡率（人口千対）は14.6で、前年の14.6と同じであった。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和30年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和63年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている（図4）。

図4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率（人口10万対）をみると、0～4歳、15～19歳、25～29歳、30～34歳、50～54歳、65～69歳、75～79歳の各階級が前年より増加し、5～9歳、10～14歳、20～24歳、35～39歳、40歳代、55～59歳、60～64歳、70～74歳、80歳以上の各階級が前年より減少した。特に80歳代の減少が大きい。

死亡率性比（男性の死亡率／女性の死亡率×100）を年齢階級別にみると、15歳以上の各階級において100以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している（表4）。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	令和2年	令和元年	対前年増減	令和2年	令和元年	対前年増減	
総数	9,585	9,710	△ 125	1,447.6	1,460.2	△ 12.6	97.9
0～4	15	11	4	61.8	42.3	19.5	82.1
5～9	1	2	△ 1	3.6	7.1	△ 3.5	-
10～14	2	3	△ 1	6.9	10.3	△ 3.4	-
15～19	6	5	1	19.8	16.1	3.7	177.5
20～24	11	11	0	44.3	45.8	△ 1.5	235.8
25～29	12	10	2	46.4	41.7	4.7	275.7
30～34	17	9	8	57.3	30.0	27.3	307.1
35～39	24	25	△ 1	69.4	71.4	△ 2.0	284.2
40～44	29	42	△ 13	72.2	102.4	△ 30.2	113.7
45～49	75	73	2	168.3	169.8	△ 1.5	157.6
50～54	88	73	15	230.5	192.1	38.4	162.5
55～59	129	138	△ 9	326.7	345.0	△ 18.3	178.2
60～64	213	257	△ 44	485.3	571.1	△ 85.8	334.4
65～69	444	458	△ 14	881.4	848.1	33.3	265.6
70～74	709	683	26	1,273.9	1,313.5	△ 39.6	269.1
75～79	878	846	32	2,240.1	2,115.0	125.1	233.7
80～	6,932	7,064	△ 132	8,255.0	8,310.6	△ 55.6	130.0

注1) 死亡率性比=男性の死亡率/女性の死亡率×100

2) 年齢（5歳階級）別死亡率の算出に用いた人口は、令和2年は令和2年国勢調査に関する不詳補完結果(参考表)

(2) 死因

①死因順位

令和2年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,413人（人口10万対死亡率366.7）、第2位は心疾患で1,400人（212.8）、第3位は老衰で1,124人（170.8）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいに推移していたが、平成19年以降上昇し続けている。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している。（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県別に比較した場合、本県は血管性及び詳細不明の認知症（全国第2位）、老衰（第2位）、アルツハイマー病（第3位）の死亡率が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

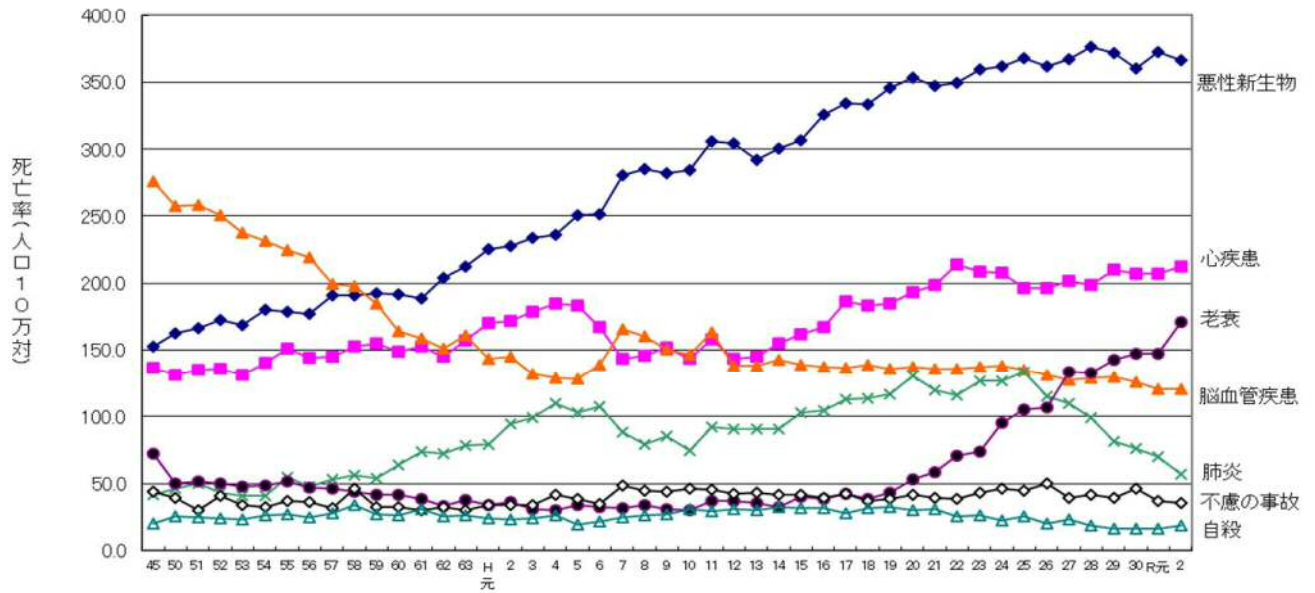


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	令和2年									令和元年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物<腫瘍>	1	2,413	366.7	1	1,376	432.7	1	1,037	305.0	1	2,481	373.1
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,400	212.8	2	647	203.5	3	753	221.5	2	1,376	206.9
老 衰	3	1,124	170.8	4	264	83.0	2	860	252.9	3	982	147.7
脳血管疾患	4	795	120.8	3	314	98.7	4	481	141.5	4	803	120.8
肺 炎	5	373	56.7	5	204	64.2	6	169	49.7	5	463	69.6
誤嚥性肺炎	6	332	50.5	6	180	56.6	7	152	44.7	6	390	58.6
アルツハイマー病	7	249	37.8	13	74	23.3	5	175	51.5	7	290	43.6
不慮の事故	8	234	35.6	7	134	42.1	9	100	29.4	8	240	36.1
血管性及び詳細不明の認知症	9	217	33.0	12	76	23.9	8	141	41.5	9	210	31.6
腎 不 全	10	183	27.8	9	89	28.0	10	94	27.6	10	198	29.8

注1) 令和元年は確定数

2) 男性の8位は「自殺」で死亡数94、死亡率29.6。10位は「間質性肺疾患」で死亡数88、死亡率27.7である。

②年齢別死因

令和2年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、自殺の占める割合は女性が15～19歳、20歳代、35～39歳、男性においては15～19歳、20歳代、30歳代、40～44歳が高くなっている。また死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男性は概ね45～49歳から増加し、70～74歳がピークとなっている。女性は65～69歳が最も高く、概ね40～44歳、50代から60代では5割以上を占めている（図6）。

図6-1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

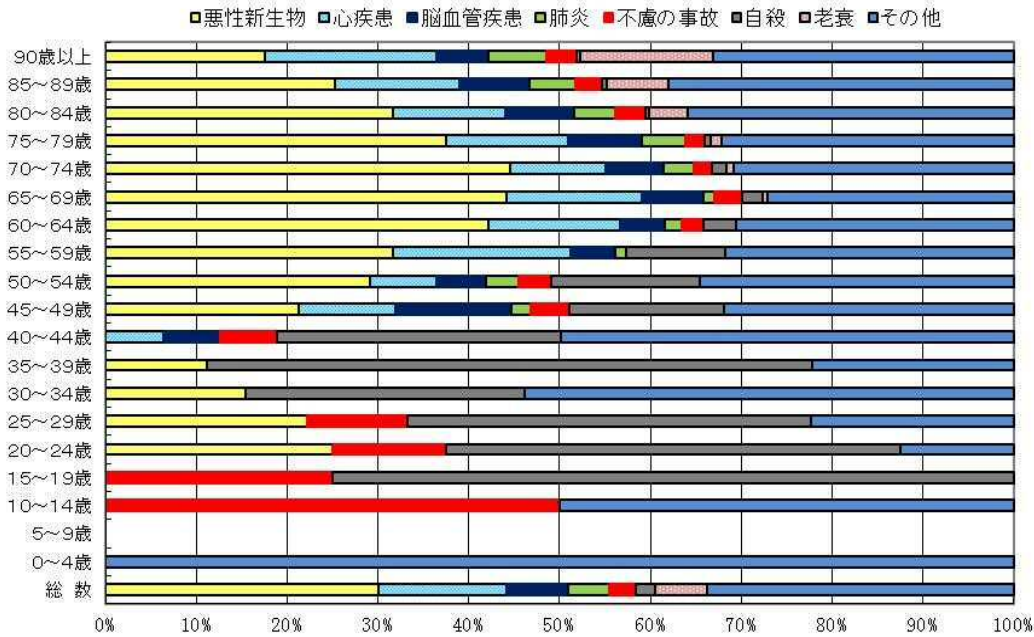
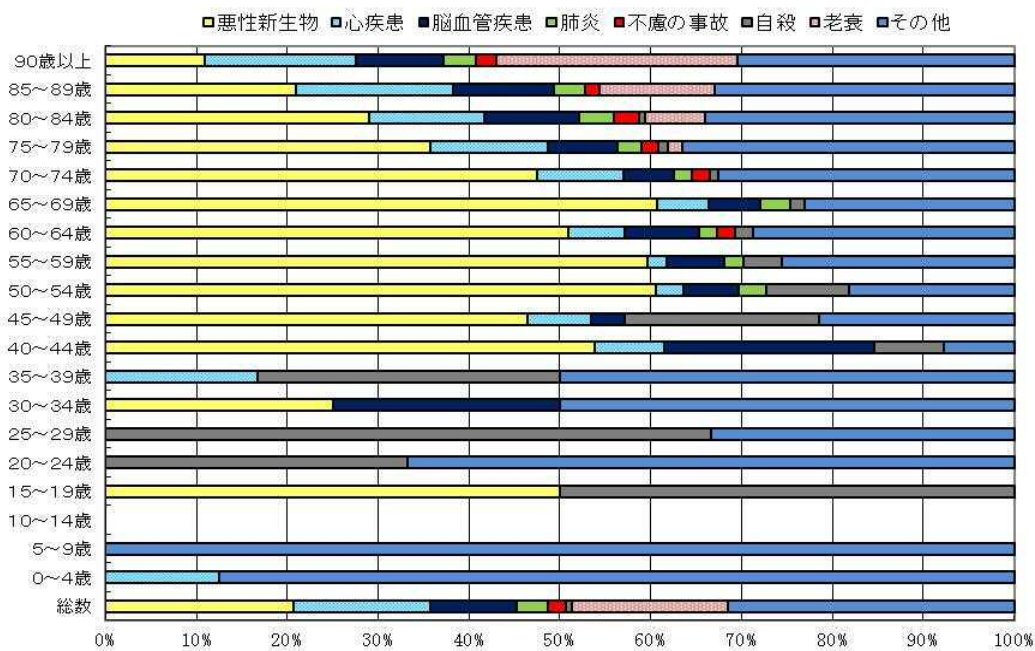


図6-2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口10万対）を主な部位別に見ると、男性では肝が上昇し、令和2年の死亡数は133人、死亡率は41.8となっている。女性では肺、肝が上昇し、令和2年の死亡数は順に134人、74人で、死亡率は39.4、21.8となっている。（表6、図7）。

表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移

死亡数																			
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197	176	164
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328	361	308
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115	129	133
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107	112	104
	大腸*	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148	174	142
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115	122	111
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129	124	134
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64	57	74
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117	132	127
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73	87	59
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38	35	27
	大腸*	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173	169	164

死亡率																			
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8	54.8	51.6
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2	112.5	96.9
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5	40.2	41.8
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0	34.9	32.7
	大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7	54.2	44.7
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0	35.5	32.6
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1	36.0	39.4
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4	16.6	21.8
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6	38.4	37.4
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0	25.3	17.4
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9	10.2	7.9
	大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7	49.1	48.2

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和40年は十二指腸と小腸を含み、昭和50年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

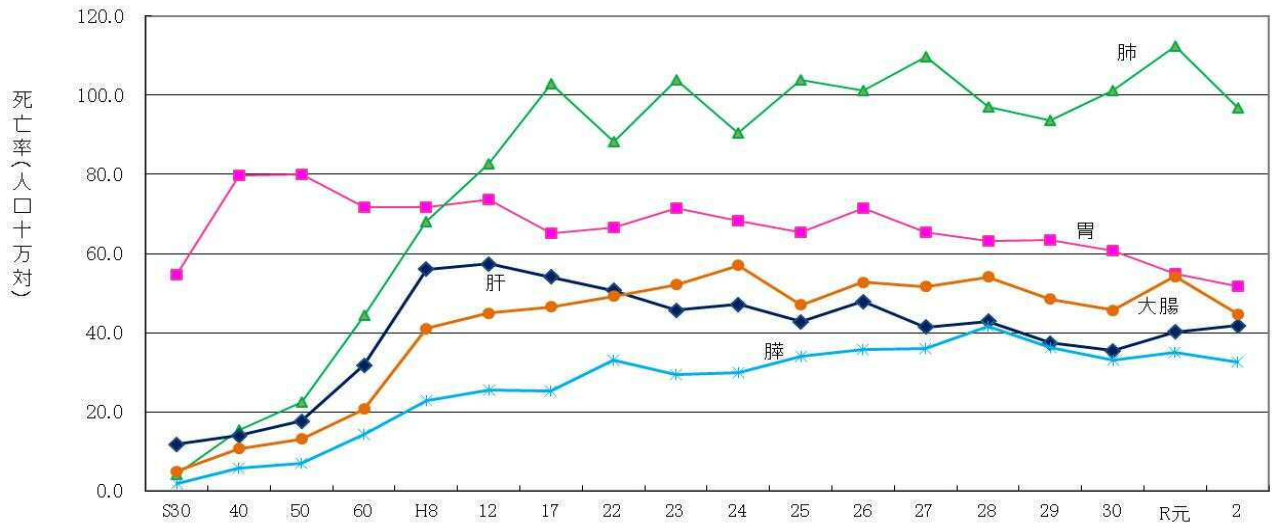
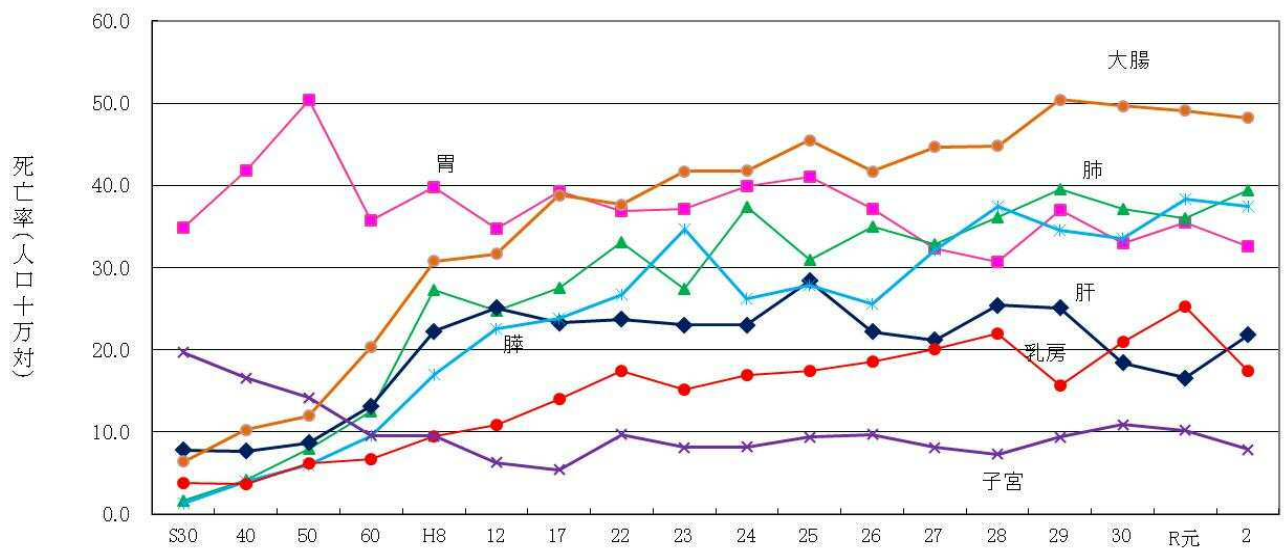


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）



4 婚姻

令和2年の婚姻件数は2,398組で、前年の2,625組から227組減少した。婚姻率（人口千対）は3.6で、前年の3.9を0.3下回った。

婚姻率の年次推移をみると、第1次婚姻ブームである昭和22、23年は高かったものの、以後急激に低下していった。その後わずかに増加に転じ、昭和33年には7.9まで回復した。また、戦後のベビーブームに生まれた子供が適齢期に達した昭和46年には再び7.5まで上昇したが、その後は年々低下し、平成元年は4.4となった。平成元年以降はほぼ横ばいに推移していたが、近年は再び低下が続いており、令和2年は過去最低の3.6となった（図8）。

平均初婚年齢は夫が30.3歳、妻が28.9歳であり、晩婚化傾向が続いている（表7）。

図8 婚姻率の年次推移

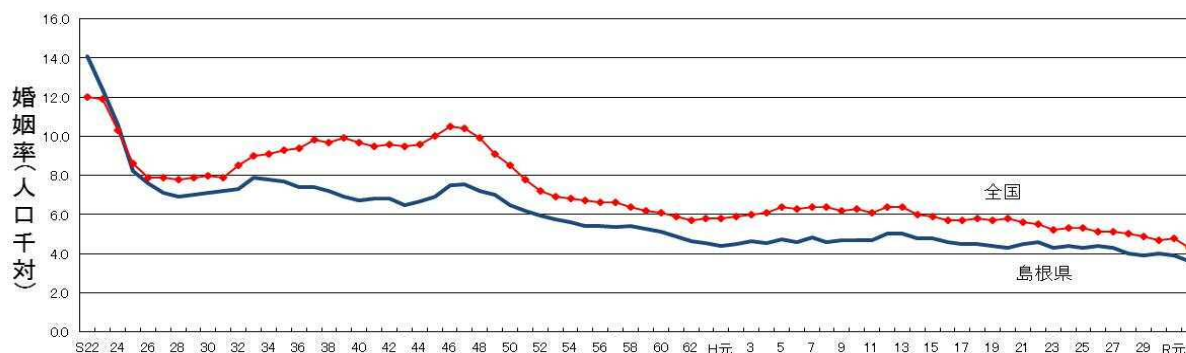


表7 平均初婚年齢の年次推移

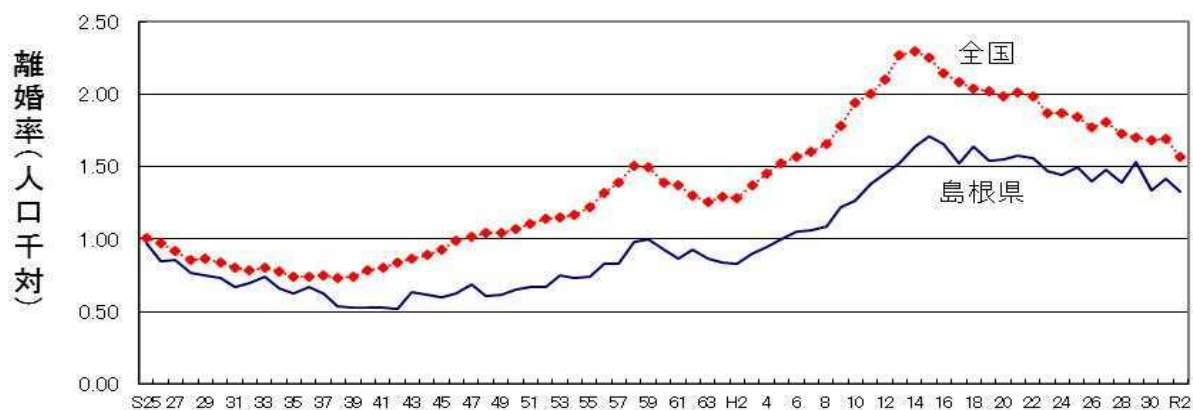
	夫		妻	
	島根県	全国	島根県	全国
昭和40	27.3	27.2	24.5	24.5
45	26.8	26.9	24.1	24.2
50	26.8	27.0	24.5	24.7
55	27.6	27.8	25.0	25.2
60	28.1	28.2	25.3	25.5
平成2	28.4	28.4	25.7	25.9
7	28.4	28.5	25.9	26.3
12	28.3	28.8	26.6	27.0
17	29.1	29.8	27.4	28.0
22	30.0	30.5	28.4	28.8
23	30.3	30.7	28.5	29.0
24	30.4	30.8	28.6	29.2
25	30.5	30.9	29.0	29.3
26	30.7	31.1	28.9	29.4
27	30.4	31.1	29.1	29.4
28	30.4	31.1	28.7	29.4
29	30.5	31.1	29.0	29.4
30	30.6	31.1	29.1	29.4
令和元	30.3	31.2	29.0	29.6
2	30.3	31.0	28.9	29.4

5 離婚

令和2年の離婚件数は877件で、前年の945組から68組減少した。離婚率（人口千対）は1.33で、前年の1.42を0.09下回った。

離婚率の年次推移をみると、昭和42年までは低下傾向にあったが、その後は増減を繰り返しつつ上昇し、平成15年には過去最高の1.71を記録した。その後増減を繰り返し、近年では緩やかに下降推移している。また、全国平均と比べると低くなっている（図9）。

図9 離婚率の年次推移



統計表

昭和25年～令和2年

自然増減数	死産数			周産期死亡数			婚姻 件数	離婚 件数	年次
	総数	自然	人工	総数	妊娠満22週 以後の死産	早期新生 児死亡			
14,153	2,593	1,141	1,452	7,487	886	25
12,868	2,623	1,015	1,608	6,900	774	26
11,177	2,484	916	1,568	6,523	789	27
10,078	2,301	825	1,476	6,305	707	28
8,919	2,154	772	1,382	6,509	697	29
8,765	2,089	704	1,385	6,559	676	30
7,577	1,956	687	1,269	6,615	621	31
5,959	2,070	688	1,382	6,692	637	32
7,237	2,186	773	1,413	7,157	675	33
6,877	1,850	678	1,172	7,043	591	34
5,679	1,827	669	1,158	6,888	563	35
4,927	1,844	694	1,150	6,541	592	36
4,412	1,751	663	1,088	6,452	551	37
3,993	1,667	632	1,035	6,171	461	38
4,343	1,506	587	919	5,846	448	39
3,620	1,334	560	774	5,514	432	40
1,131	1,189	461	728	5,525	431	41
4,695	1,099	486	613	5,457	416	42
3,333	998	450	548	245	161	84	5,139	503	43
3,120	965	465	500	232	161	71	5,210	485	44
2,750	907	444	463	235	158	77	5,334	460	45
3,427	839	426	413	226	151	75	5,713	477	46
3,705	808	431	377	188	127	61	5,751	522	47
4,404	743	390	353	199	126	73	5,502	460	48
4,220	684	383	301	211	142	69	5,334	469	49
3,742	621	329	292	188	127	61	4,980	499	50
3,332	591	306	285	146	84	62	4,763	515	51
3,403	556	263	293	140	90	50	4,610	520	52
3,427	519	276	243	139	94	45	4,459	580	53
3,389	488	237	251	120	77	43	4,377	574	54
2,854	470	263	207	141	78	63	4,243	579	55
2,975	465	248	217	109	70	39	4,235	650	56
2,695	473	235	238	102	69	33	4,205	651	57
2,496	443	229	214	94	62	32	4,253	770	58
2,615	417	200	217	80	53	27	4,127	789	59
2,418	424	204	220	75	58	17	4,089	742	60
2,132	386	177	209	61	36	25	3,859	688	61
1,970	317	146	171	70	41	29	3,653	732	62
1,294	333	130	203	37	24	13	3,562	684	63
852	301	149	152	52	39	13	3,438	661	平成元年
432	291	131	160	42	25	17	3,513	645	2
345	282	111	171	35	25	10	3,587	702	3
-199	287	116	171	30	21	9	3,515	730	4
-321	254	97	157	32	24	8	3,637	769	5
-269	216	100	116	29	17	12	3,540	809	6
-923	196	92	104	49	37	12	3,699	818	7
-673	217	103	114	42	29	13	3,520	836	8
-1,036	187	70	117	33	26	7	3,562	930	9
-893	210	80	130	43	30	13	3,562	965	10
-1,810	218	87	131	44	32	12	3,570	1,050	11
-1,178	201	73	128	32	27	5	3,772	1,095	12
-1,026	209	81	128	40	33	7	3,803	1,146	13
-1,519	185	69	116	26	19	7	3,614	1,235	14
-1,958	178	64	114	29	23	6	3,569	1,278	15
-2,108	191	68	123	24	18	6	3,441	1,235	16
-2,860	170	61	109	31	24	7	3,345	1,124	17
-2,442	160	56	104	24	18	6	3,305	1,199	18
-2,746	155	67	88	31	27	4	3,203	1,119	19
-3,326	155	73	82	22	19	3	3,103	1,117	20
-3,253	144	66	78	26	24	2	3,220	1,127	21
-3,353	143	67	76	23	17	6	3,283	1,110	22
-3,830	136	51	85	13	9	4	3,058	1,043	23
-3,928	138	57	81	19	14	5	3,114	1,014	24
-4,038	131	54	77	20	16	4	2,992	1,045	25
-4,010	124	65	59	17	17	-	3,022	966	26
-4,053	107	41	66	14	10	4	2,931	1,022	27
-4,262	136	78	58	17	15	2	2,753	949	28
-4,585	110	51	59	13	9	4	2,662	1,035	29
-4,837	99	51	48	18	15	3	2,672	901	30
-5,116	98	54	44	17	14	3	2,625	945	令和元年
-5,112	91	60	31	24	18	6	2,398	877	2

第3表 母の年齢(5歳階級)別出生数の年次推移

(単位:人)

昭和45年～令和2年

年次	総数	母の年齢									
		～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不詳
昭和45年	10,539	-	72	2,691	5,263	1,976	470	56	8	1	2
50	10,939	-	68	2,764	5,931	1,805	329	42	-	-	-
51	10,511	-	63	2,537	6,037	1,524	302	45	3	-	-
52	10,381	-	64	2,264	6,076	1,664	269	41	3	-	-
53	10,247	-	51	2,131	5,807	1,914	305	35	4	-	-
54	10,136	-	44	2,079	5,497	2,213	265	37	1	-	-
55	9,959	-	54	1,923	5,257	2,371	311	43	-	-	-
56	9,720	-	55	1,802	5,065	2,469	290	39	-	-	-
57	9,366	-	53	1,762	4,749	2,408	365	28	1	-	-
58	9,536	-	75	1,777	4,821	2,377	448	37	1	-	-
59	9,278	-	79	1,613	4,697	2,342	504	41	2	-	-
60	9,051	-	94	1,491	4,614	2,286	519	45	2	-	-
61	8,828	-	68	1,432	4,428	2,323	541	36	-	-	-
62	8,523	-	86	1,389	4,184	2,296	515	52	1	-	-
63	8,156	-	64	1,194	3,988	2,373	477	59	1	-	-
平成元年	7,759	-	70	1,170	3,638	2,310	498	72	1	-	-
2	7,510	-	89	1,175	3,391	2,242	535	77	1	-	-
3	7,390	-	113	1,138	3,191	2,329	551	68	-	-	-
4	7,081	-	88	1,191	3,011	2,212	519	59	1	-	-
5	6,959	1	91	1,184	2,885	2,190	549	58	1	-	-
6	7,068	-	107	1,208	2,909	2,196	601	47	-	-	-
7	6,764	-	109	1,155	2,694	2,144	599	62	1	-	-
8	6,828	1	83	1,175	2,815	2,071	614	67	2	-	-
9	6,518	-	64	1,170	2,604	1,982	622	72	4	-	-
10	6,491	-	73	1,052	2,661	2,003	623	76	3	-	-
11	6,394	-	76	1,004	2,630	1,974	637	71	2	-	-
12	6,522	-	93	988	2,624	1,978	735	101	3	-	-
13	6,640	-	120	1,012	2,723	2,014	684	84	3	-	-
14	6,318	-	114	984	2,453	1,974	705	83	3	2	-
15	6,092	2	105	923	2,276	1,985	712	85	4	-	-
16	6,104	-	94	894	2,204	2,066	732	112	2	-	-
17	5,697	-	104	780	2,006	1,987	721	96	3	-	-
18	6,011	-	95	796	2,015	2,223	766	114	2	-	-
19	5,914	-	70	791	1,971	2,101	852	125	4	-	-
20	5,685	-	79	682	1,807	2,026	976	113	2	-	-
21	5,601	-	87	687	1,769	1,973	968	112	5	-	-
22	5,756	-	71	691	1,795	1,986	1,049	162	2	-	-
23	5,582	1	62	654	1,672	1,958	1,075	160	-	-	-
24	5,585	-	58	600	1,687	1,906	1,124	208	2	-	-
25	5,472	-	62	524	1,681	1,961	1,113	190	3	-	-
26	5,359	1	69	471	1,659	1,858	1,055	238	8	-	-
27	5,551	-	57	539	1,542	1,985	1,156	266	6	-	-
28	5,300	1	70	472	1,537	1,769	1,152	292	7	-	-
29	5,109	-	38	459	1,361	1,864	1,136	247	4	-	-
30	4,887	-	32	455	1,399	1,739	982	270	10	-	-
令和元年	4,594	-	33	417	1,308	1,593	1,015	225	3	-	-
2	4,473	-	37	393	1,304	1,508	976	245	10	-	-

注：令和2年は概数である。

第5表 死因简单分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因简单分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R2 死亡総数に占める割合(%)
	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	
総 数	9585	9,710	1456.7	1460.2	100.0
1000 感染症及び寄生虫症	174	149	26.4	22.4	1.8
1100 腸管感染症	24	14	3.6	2.1	0.3
1200 結核	16	9	2.4	1.4	0.2
1201 呼吸器結核	14	8	2.1	1.2	0.1
1202 その他の結核	2	1	0.3	0.2	0.0
1300 敗血症	71	71	10.8	10.7	0.7
1400 ウイルス性肝炎	17	13	2.6	2.0	0.2
1401 B型ウイルス性肝炎	2	1	0.3	0.2	0.0
1402 C型ウイルス性肝炎	13	12	2.0	1.8	0.1
1403 その他のウイルス性肝炎	2	-	0.3	-	0.0
1500 ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病	-	-	-	-	-
1600 その他の感染症及び寄生虫症	46	42	7.0	6.3	0.5
2000 新生物<腫瘍>	2518	2,573	382.7	386.9	26.3
2100 悪性新生物<腫瘍>	2413	2,481	366.7	373.1	25.2
2101 口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>	58	53	8.8	8.0	0.6
2102 食道の悪性新生物<腫瘍>	74	86	11.2	12.9	0.8
2103 胃の悪性新生物<腫瘍>	275	298	41.8	44.8	2.9
2104 結腸の悪性新生物<腫瘍>	206	233	31.3	35.0	2.1
2105 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	100	110	15.2	16.5	1.0
2106 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	207	186	31.5	28.0	2.2
2107 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物<腫瘍>	120	113	18.2	17.0	1.3
2108 膵の悪性新生物<腫瘍>	231	244	35.1	36.7	2.4
2109 喉頭の悪性新生物<腫瘍>	3	5	0.5	0.8	0.0
2110 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	442	485	67.2	72.9	4.6
2111 皮膚の悪性新生物<腫瘍>	10	10	1.5	1.5	0.1
2112 乳房の悪性新生物<腫瘍>	60	87	9.1	13.1	0.6
2113 子宮の悪性新生物<腫瘍> 1)	27	35	7.9	10.2	0.3
2114 卵巣の悪性新生物<腫瘍> 1)	25	24	7.4	7.0	0.3
2115 前立腺の悪性新生物<腫瘍> 2)	92	66	28.9	20.6	1.0
2116 膀胱の悪性新生物<腫瘍>	69	59	10.5	8.9	0.7
2117 中枢神経系の悪性新生物<腫瘍>	19	14	2.9	2.1	0.2
2118 悪性リンパ腫	121	99	18.4	14.9	1.3
2119 白血病	55	59	8.4	8.9	0.6
2120 その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>	31	31	4.7	4.7	0.3

第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因簡単分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R2 死亡総数に占める割合(%)
	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	
2121 その他の悪性新生物<腫瘍>	188	184	28.6	27.7	2.0
2200 その他の新生物<腫瘍>	105	92	16.0	13.8	1.1
2201 中枢神経系のその他の新生物<腫瘍>	17	18	2.6	2.7	0.2
2202 中枢神経系を除くその他の新生物<腫瘍>	88	74	13.4	11.1	0.9
3000 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	44	28	6.7	4.2	0.5
3100 貧血	23	12	3.5	1.8	0.2
3200 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	21	16	3.2	2.4	0.2
4000 内分泌、栄養及び代謝疾患	151	169	22.9	25.4	1.6
4100 糖尿病	95	92	14.4	13.8	1.0
4200 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	56	77	8.5	11.6	0.6
5000 精神及び行動の障害	243	228	36.9	34.3	2.5
5100 血管性及び詳細不明の認知症	217	210	33.0	31.6	2.3
5200 その他の精神及び行動の障害	26	18	4.0	2.7	0.3
6000 神経系の疾患	505	549	76.7	82.6	5.3
6100 髄膜炎	2	1	0.3	0.2	0.0
6200 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	22	20	3.3	3.0	0.2
6300 パーキンソン病	95	109	14.4	16.4	1.0
6400 アルツハイマー病	249	290	37.8	43.6	2.6
6500 その他の神経系の疾患	137	129	20.8	19.4	1.4
7000 眼及び付属器の疾患	-	-	-	-	-
8000 耳及び乳様突起の疾患	-	-	-	-	-
9000 循環器系の疾患	2416	2,414	367.2	363.0	25.2
9100 高血圧性疾患	66	63	10.0	9.5	0.7
9101 高血圧性心疾患及び心腎疾患	35	33	5.3	5.0	0.4
9102 その他の高血圧性疾患	31	30	4.7	4.5	0.3
9200 心疾患(高血圧性を除く)	1400	1,376	212.8	206.9	14.6
9201 慢性リウマチ性心疾患	11	8	1.7	1.2	0.1
9202 急性心筋梗塞	108	107	16.4	16.1	1.1
9203 その他の虚血性心疾患	128	101	19.5	15.2	1.3
9204 慢性非リウマチ性心内膜疾患	129	104	19.6	15.6	1.3
9205 心筋症	50	38	7.6	5.7	0.5
9206 不整脈及び伝導障害	364	381	55.3	57.3	3.8
9207 心不全	585	615	88.9	92.5	6.1
9208 その他の心疾患	25	22	3.8	3.3	0.3
9300 脳血管疾患	795	803	120.8	120.8	8.3

第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因簡単分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R2 死亡総数に占める割合(%)
	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	
9301 くも膜下出血	72	71	10.9	10.7	0.8
9302 脳内出血	210	191	31.9	28.7	2.2
9303 脳梗塞	499	531	75.8	79.8	5.2
9304 その他の脳血管疾患	14	10	2.1	1.5	0.1
9400 大動脈瘤及びび解離	114	138	17.3	20.8	1.2
9500 その他の循環器系の疾患	41	34	6.2	5.1	0.4
10000 呼吸器系の疾患	1058	1,244	160.8	187.1	11.0
10100 インフルエンザ	7	25	1.1	3.8	0.1
10200 肺炎	373	463	56.7	69.6	3.9
10300 急性気管支炎	1	6	0.2	0.9	0.0
10400 慢性閉塞性肺疾患	100	114	15.2	17.1	1.0
10500 喘息	7	11	1.1	1.7	0.1
10600 その他の呼吸器系の疾患	570	625	86.6	94.0	5.9
10601 誤嚥性肺炎	332	390	50.5	58.6	3.5
10602 間質性肺疾患	146	128	22.2	19.2	1.5
10603 その他の呼吸器系の疾患 (10601及び10602を除く)	92	107	14.0	16.1	1.0
11000 消化器系の疾患	325	323	49.4	48.6	3.4
11100 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	10	15	1.5	2.3	0.1
11200 ヘルニア及び腸閉塞	49	49	7.4	7.4	0.5
11300 肝疾患	108	75	16.4	11.3	1.1
11301 肝硬変(アルコール性を除く)	42	36	6.4	5.4	0.4
11302 その他の肝疾患	66	39	10.0	5.9	0.7
11400 その他の消化器系の疾患	158	184	24.0	27.7	1.6
12000 皮膚及び皮下組織の疾患	18	16	2.7	2.4	0.2
13000 筋骨格系及び結合組織の疾患	49	73	7.4	11.0	0.5
14000 腎尿路生殖器系の疾患	345	356	52.4	53.5	3.6
14100 糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	75	81	11.4	12.2	0.8
14200 腎不全	183	198	27.8	29.8	1.9
14201 急性腎不全	9	16	1.4	2.4	0.1
14202 慢性腎臓病	142	155	21.6	23.3	1.5
14203 詳細不明の腎不全	32	27	4.9	4.1	0.3
14300 その他の腎尿路生殖器系の疾患	87	77	13.2	11.6	0.9
15000 妊娠、分娩及び産じょく ¹⁾	-	1	-	0.3	-
16000 周産期に発生した病態	1	2	0.2	0.3	0.0
16100 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	-	1	-	0.2	-

第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因簡単分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R2 死亡総数に占める割合(%)
	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	
16200 出産外傷	-	-	-	-	-
16300 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	-	-	-	-	-
16400 周産期に特異的な感染症	-	-	-	-	-
16500 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	1	1	0.2	0.2	0.0
16600 その他の周産期に発生した病態	-	-	-	-	-
17000 先天奇形、変形及び染色体異常	17	9	2.6	1.4	0.2
17100 神経系の先天奇形	1	-	0.2	-	0.0
17200 循環器系の先天奇形	6	4	0.9	0.6	0.1
17201 心臓の先天奇形	2	2	0.3	0.3	0.0
17202 その他の循環器系の先天奇形	4	2	0.6	0.3	0.0
17300 消化器系の先天奇形	-	2	-	0.3	-
17400 その他の先天奇形及び変形	4	1	0.6	0.2	0.0
17500 染色体異常、他に分類されないもの	6	2	0.9	0.3	0.1
18000 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1260	1,131	191.5	170.1	13.1
18100 老衰	1124	982	170.8	147.7	11.7
18200 乳幼児突然死症候群	1	1	0.2	0.2	0.0
18300 その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	135	148	20.5	22.3	1.4
20000 傷病及び死亡の外因	461	445	70.1	66.9	4.8
20100 不慮の事故	234	240	35.6	36.1	2.4
20101 交通事故	16	27	2.4	4.1	0.2
20102 転倒・転落・墜落	79	71	12.0	10.7	0.8
20103 不慮の溺死及び溺水	33	44	5.0	6.6	0.3
20104 不慮の窒息	64	62	9.7	9.3	0.7
20105 煙、火及び火炎への曝露	2	2	0.3	0.3	0.0
20106 有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	3	1	0.5	0.2	0.0
20107 その他の不慮の事故	37	33	5.6	5.0	0.4
20200 自殺	124	110	18.8	16.5	1.3
20300 他殺	1	-	0.2	-	0.0
20400 その他の外因	102	95	15.5	14.3	1.1
22000 特殊目的用コード	-	-	-	-	-
22100 重症急性呼吸器症候群[SARS]	-	-	-	-	-
22200 その他の特殊目的用コード	-	-	-	-	-

注：・令和2年は概数

1)死亡率は、女性人口10万に対する率である。 2)死亡率は、男性人口10万に対する率である。

参 考

* 算出に用いた人口

表1 人口総数(日本人人口) (単位:人)

	総数	男	女
人口総数	658,000	318,000	340,000

※ 総務省統計局の資料に基づき、令和2年10月1日現在の人口を厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計

表2 年齢5歳階級別人口(日本人女性人口) (単位:人)

年齢階級	女
15～19歳	15,000
20～24歳	11,000
25～29歳	11,000
30～34歳	14,000
35～39歳	16,000
40～44歳	19,000
45～49歳	21,000

※ 総務省統計局の資料に基づき、令和2年10月1日現在の人口を厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計

表3 年齢5歳階級・男女別人口(日本人人口)

※ 結果の概要 3 死亡 (1)表4 年齢(5歳階級)別死亡率の算出基礎とした。 (単位:人)

年齢階級	総数	男	女
総数	662,115	319,954	342,161
0～4歳	24,264	12,519	11,745
5～9歳	27,988	14,461	13,527
10～14歳	29,026	14,831	14,195
15～19歳	30,334	16,072	14,262
20～24歳	24,845	13,187	11,658
25～29歳	25,864	13,477	12,387
30～34歳	29,669	15,257	14,412
35～39歳	34,607	17,772	16,835
40～44歳	40,194	20,897	19,297
45～49歳	44,573	22,990	21,583
50～54歳	38,183	19,331	18,852
55～59歳	39,487	19,534	19,953
60～64歳	43,887	21,952	21,935
65～69歳	50,372	25,107	25,265
70～74歳	55,655	27,052	28,603
75～79歳	39,194	17,226	21,968
80～84歳	33,705	13,306	20,399
85歳以上	50,268	14,983	35,285

資料: 「令和2年国勢調査に関する不詳補充結果(参考表)」 (総務省統計局)